大阪城

2020 4/2(木) 1405号

全港湾 西成分会
でんわ 6647-4947

志村けん70歳が、コロナウイルスで死に、ウイルスの危険が、目には見えないが、だれにも確実に迫ってきている。

2月の横浜のクルーズ船や 3月はじめの京橋の（都島）ライブハウスでの感染者の報道のころとは、局面は全くかわってきている。首都・東京の「都市封鎖」の話がネットをはじめ、人々の口に出るようになっている。

アメリカ、ニューヨークの医療崩壊やふえつづける死者の数や悲惨な現実が報道され、日本の都市は、だいじょうぶなんか？とみんなが感じる段階に入ってきている。

長期のたいへんな戦いになっていきそうな予感をだれもが感じるようになってきている。

すでに、コロナウイルス後の世界や社会をにらんでの戦いも、同時平行的に、あらゆる分野で 二重の戦いとして進行しているようだ。それは、よく手を洗い、うがいをよくして、三密をできるだけさけることから、小さいが始まっていくようです。

新年度を迎えた「日雇い現金労働市場」

コロナもあって壊滅状態になりそうです。

4月になって新しい年度を迎えました。旧センターのシャッターが下ろされ「閉鎖されて1年になります。

「仮移転された職安・西成労働センター」は規模が縮小され運営されていますが、旧来果たしてきた「労働者の福祉的機能」はきりすてられたままで、廃墟のような旧センターの陰にうずもれたような感のある光景になっています。

業者の求人車も拡散して当初行政が絵にかいたようなものにはなっていないようです。求人の中身でも去年・おととし北大阪地震や台風被害で例年になく求人がおしかけて、求人数が上向きに推移していたのですが、消費税増税をきっかけに下方に転じて相当の落ち込みになってしまいました。

建設業は「年度末に工事が集中する」ということで3月に求人のピークと言うことになるので、4月から6月くらいまで「端境期」になって求人が途絶えたりします。どのくらいこの時期の求人のおちこみがあるのか、それに加えてコロナ問題の長期化が重なるので、最近ここで仕事をするようになった労働者は経験がないようですが、そうとう深刻になりそうです。